

「からだにやさしい」乳がん手術

やまなし

医療最前線

県立中央病院から

大腸ごと並び、女性の罹患率が高い乳がん。近年は、乳房を温存し、転移しやすいリンパ節のみを摘出す「からだにやさしい手術」が中心になっている。

乳がんはマンモグラフィや乳腺超音波（エコー）検査、自己触診などで見つかるケースが多い。治療は手術に放射線療法や化学療法を組み合わせるのが主流だ。40年前の手術は、乳房と胸の筋肉、脇の下の腋窩リンパ節を切除する方法が中心だったが、胸がえぐれたような外見になったり、腕がむくんだりするなど、患者にとって苦痛も伴った。近年は、乳房温存療法と乳がんが転移しやすいセンチネルリンパ節の



中込 博
乳腺外科科長

乳房温存、後遺症も少なく

《 4 》

みを摘出する方法を採用。乳房温存療法は、1980年代に乳房の4分の1を切除することからスタートし、徐々に切除範囲が狭まってきている。温存した乳房には放射線治療を追加して行い、現在では全国で約6割の患者が受けている。

県立中央病院で2010年に行われた乳がん手術154件のうち、乳房温存は88.3%（136件）に上った。乳房再建は2件。一方、乳房切除は16件と約1割にとどまった。乳房をより美しく温存できる手術も考案され、同病院では形成外科の小林公一医師考案による形成外科的な手法を取り入れ、広範囲の乳房切除が必

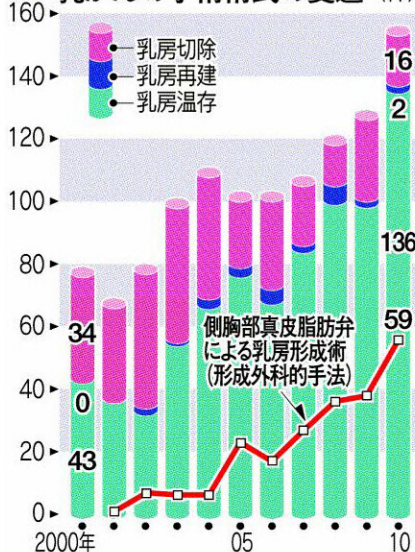
ずことは、体にやさしいだけでなく、患者さんの心やその後の生活にもやさしい治療といえる」と話している。

要な患者にも乳房温存手術が行えるようになった。

センチネルリンパ節は乳がんが転移しやすいリンパ節であり、手術でそのリンパ節のみを摘出、転移がみられなければ周囲のリンパ節には転移がないと考えて摘出しません。これまではリンパ節に転移のない患者も腋窩リンパ節を全て切除しなければならなかったため、上腕の浮腫という術後の後遺症に悩む患者が多かった。1〜3個のセンチネルリンパ節を摘出するだけでよくなったため、後遺症が少なくなっている。

同病院乳腺外科科長の中込博医師は「進化した病変では術前の化学療法で小さくしてから乳房温存療法を行う場合もある。乳房をきれいに残すことは、体にやさしいだけでなく、患者さんの心やその後の生活にもやさしい治療といえる」と話している。

山梨県立中央病院における乳がんの手術術式の変遷 (件)



胸部部真皮脂肪弁による乳房形成術 (形成外科的手法)

(第2、4金曜日に掲載します。次回は10月14日です)